

夏秋系スプレーギク新品種 ‘紀州サマーリンド’の育成

[分類] 普及 [所属名] 農業試験場 栽培部

[研究期間]

令和3～6年度

[背景とねらい]

夏秋系スプレーギク品種では、茎葉が軟弱、花持ちが悪いといった問題を抱えるものが多く、産地に定着する品種が乏しい状況にあります。また、種苗会社に支払う栽培許諾料が生産者の大きな負担となっています。そこで、県内産地に適した、茎葉が強固で花持ちや秀品率が良く、許諾料が安価なオリジナル品種の育成に取り組みました。

[研究の成果]

1. 平成30年に育成系統「WSM160502」（‘デュエル’×‘ワカミレイユ’）を含む複数品種を栽培し、訪花昆虫による自然交雑によって得た種子の中から選抜を進め、本県初のスプレーギクオリジナル品種‘紀州サマーリンド’を育成しました（図1）。
2. 花色は明るい桃色で、頂花が側花と比べて突出するタイプに分類されるため、頂花の除去は必要ありません（図1、2、表1）。
3. 12～13時間日長条件において、消灯後6.5～7.5週で開花します（表1）。
4. ‘ワカミレイユ’と比較して、‘紀州サマーリンド’は切り花長が長く、出荷規格2Lの基準（80cm）を安定して超えます。切り花重はやや軽いため、矮化剤処理によるボリュームアップを図る必要があります。また、茎葉は固く、葉は濃緑色でやや斜上して着葉します。切り花節数は少なく、茎径、花序数は同程度となります（図2、表1）。
5. 切り花は吸水力があり、水揚げ不良が起こりにくい品種と考えられます（図3）。また、花卉の傷みや脱落は起こりにくく、2～3週間程度の日持ち性が見込まれます（図4）。



図1 ‘紀州サマーリンド’



図2 ‘紀州サマーリンド’
と対照品種の切り花
左：対照品種‘ワカミレイユ’
右：‘紀州サマーリンド’

表 1 ‘紀州サマーリンド’ および対照品種の切り花特性

品 種 名	到花日数 ^z (日)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	切り花節数	茎径 ^y (mm)	花序数 ^x	SF ^w
紀州サマーリンド	51.0	102.8	64.3	43.3	5.6	14.5	A
ワカミレイユ	61.2	83.2	71.8	46.3	5.7	13.8	A-B

z：消灯～開花までに要した日数 y：頂花より40cm下部を計測 x：採花時に舌状花に着色のみられた花序の数

w：スプレーフォーメーション、頂花と側花の位置関係から花房形状を表す指標

(A：頂花が側花よりも上位、B：頂花と側花が同程度の高さ、C：頂花が側花よりも下位)

注) 直挿し：令和5年5月24日、消灯：令和5年7月4日、調査期間：令和5年8月23日～令和5年8月27日

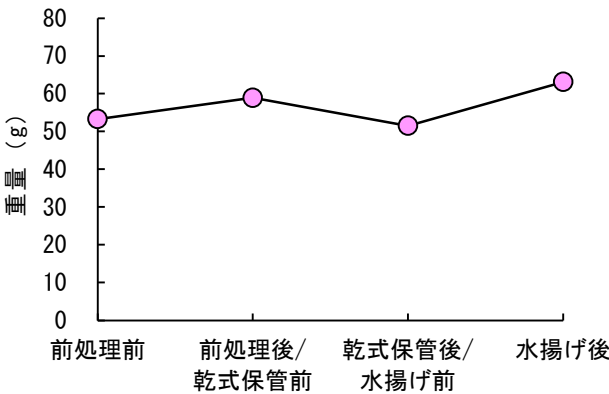


図 3 ‘紀州サマーリンド’ の乾式保管及び水揚げによる切り花重の変化

試験期間：令和4年8月3日（採花）～令和4年8月8日（水揚げ終了）

前処理：クリザールバラ 500 倍希釈液に基部を漬け、5℃で一晩吸水
(8月3日～8月4日)

乾式保管：箱詰めして2日間 25℃で保管（8月4日～8月6日）

水揚げ：乾式保管後、25℃の室内で2日間吸水（8月6日～8月8日）



図 4 ‘紀州サマーリンド’ の日持ち試験中の外観変化

試験期間：令和4年8月8日～令和4年9月2日

乾式保管後に水揚げし、24 時間照明、25℃条件のインキューベーターで保管

[成果のポイントと活用]

1. ‘紀州サマーリンド’ は令和6年6月に品種登録出願し、同年10月に出願公表されました（出願番号：第37497号）。
2. 本品種の栽培や種苗の増殖には、和歌山県の許諾が必要となります。
3. 令和7年度から、県内の生産者に種苗の供給を開始し、県内産地への普及を進めていきます。

[その他]

予算区分：県単（農林水産基礎研究）

問い合わせ先：TEL:0736-64-2300